

2026 年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

2026 JUA/EU Resident Programme 参加報告

岡 本 隆 志 (神戸大)

この度、2026年3月13日から16日の間にイギリスのロンドンで開催された第41回欧州泌尿器科学会総会にJUA/EU Resident Programmeの一員として参加させていただきました。私自身初めての海外学会の参加であり不安もありましたが、共にプログラムに参加した同世代の2人の先生方と交流しながら過ごすことで、大変心強く感じました。このような出会いは本プログラムならではの貴重な経験であり、今後の泌尿器科医人生において大きな財産になったと感じています。

3月12日には、Hospital tourとしてGuy's Hospitalを訪問させて頂き、ロボット支援腹腔鏡下腎摘除術やロボット支援腹腔鏡下尿管剥離術の手術を見学することができました。手術中にはGuy's Hospitalの先生方とお話し、多くの学びを得ることができました。また、見学後にはGuy's Hospitalの先生方と近くのPubに行き、お酒を飲みながらたくさんのお話をさせていただき、非常に楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

総会では、JUA/EU Joint sessionやLive Surgeryなどに参加しました。Joint sessionでは日本の先生方が流暢な英語で堂々と発表・議論されている姿を目の当たりにし、将来自分自身も国際学会で発表したいという思い

が一層強くなりました。また、Live Surgeryでは4つの巨大モニターを用いて同時に手術のライブ中継が行われており、執刀医の術中の思考過程や手技の工夫をリアルタイムで学ぶことができました。その規模や臨場感に圧倒され、非常に印象的でした。

さらに、滞在中にはビッグベンや大英博物館、バッキンガム宮殿などロンドンを代表する観光名所を訪れ、ロンドンの歴史に触れる事が出来ました。また、チェルシーFCの試合観戦も経験しました。間近で見る選手たちの迫力やスタジアムの熱気にとっても興奮したのを覚えています。

今回のJUA/EU Resident Programmeを通じて、日本をはじめ各国の泌尿器科医が活発に議論している姿を拝見し、大きな刺激を受けました。今後は自分自身も国際学会で発表・議論できる泌尿器科医を目指し、臨床・研究ともにさらに研鑽を積んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださった日本泌尿器科学会ならびに欧州泌尿器科学会関係各位、Guy's Hospitalの皆様、そして本プログラムへ推薦頂きました三宅教授にこの場を借りて心より御礼申し上げます。



写真1 学会場にて。左から著者、鈴木先生、田中先生



写真2 Live Surgery